かぐらおか

第 67 号

平成３年３月25日

編集　旭川医科大学
　　厚生補導委員会
発行　旭川医科大学教務部学生課

（題字は初代学長　山田守英氏）

（写真撮影　医事課　土田　由紀夫）　　海　明　け

第13期生を送るにあたって……学　長… 2
1991年の卒業生を送るにあたって …竹光　義治… 3
旭川医科大学第13回卒業者名簿…… 4
青春を山に賭けて……會澤　佳昭… 4
旭川での６年間……阿部　麻美… 5
腕の日焼けと６年間……和田　始… 5
退官にあたって……安田　博… 6
新任教官あいさつ……George Meredith Wickstead… 7
助教授に昇任して……藤田　晃三… 7
１年のあゆみ…… 8
統計情報処理実習室の開設について…谷本　光穂…10
図書館の貸出システムが電算化されます……10
音楽で豊かな感性を……10
平成４年度の地区体は本学が当番校に……11
スキー教室を黒岳スキー場に変更して実施……11
クリスマスコンサート（合唱部）と室内楽
　コンサートが病院ロビーで行われる……11
新入生歓迎実行委員会よりおしらせ……11
教官の異動……11
課外活動短信……12
学生団体設立・継続届について……12
学生証の様式の変更について……12
平成３年度前期分授業料免除及び徴収猶予について……13
平成３年度日本育英会奨学生の募集について…13
学生教育研究災害傷害保険の加入について……13
20才以上の学生の国民年金への加入について…14
大学の招介ビデオの貸出しについて……14
窓　外……秋山　建兒…14

第13期生を送るにあたって

学長　下田晶久

第13期生の皆さん卒業おめでとう！

皆さんは今、かつて味わった入学の喜びとは較べようもない程の深い感慨に浸っている事と思う。それは、医学という未知の世界への憧れと挑戦に燃えた入学時に較べて、医学の限りない深さと広さを学んだ今の時点では、卒業の喜びと同時に自らその一端を担うことになる責任の重さをも味わっているに違いないと思われるからである。

入学と卒業とは一見正反対の事柄と受け止められるが、終わりは常に次の段階の始まりなのであって、卒業証書に記された医学士としての諸君の人生は、まさに今から始まろうとしている。医学士とは、世の中の人々から医学にまつわる諸々の事を託された専門職能(profession)の称号であり、これに伴う当然の使命として、人類の幸福を医学を駆使して支える責務を負う。医学並びにその実践としての医療は、本質的に人間の生存に関わる学問であり行為であって、おのずから生・老・病・死の四つの局面のいずれとも深い関わりを持つが、年限の限られた大学の課程では、専らその医学的側面を学ぶ事に追われ、医人として欠くことの出来ないそれらの哲学的、倫理的な理解に就いては、学生生活の中でめいめいに模索を続けて来た段階にあると思われる。今後は実際の患者さんに学びながら真剣に思索を深めて行かなければならない。今や医学の専門職として立った諸君に向けられるであろう社会の期待は、怠りなく日新月歩の医学を吸収して、自らの知識の充足と技能の練磨に努める姿に留まらず、併せて生死に関わる倫理的洞察をも深め続ける態度、即ち、医人としての生涯にわたる研鑽にかかっている。

かつては一人一人の医師が、その体験を通して日夜ひそかに悩み模索して来た生死の課題を、昨今は、互いに持ち寄って論じ合う研究会が盛んに行われ、医療チームによる末期医療や死の臨床への取り組みも着実に進められている。加えて医療の進歩が新たにもたらした生命倫理の困難な問題についても、広く医師以外の人々を交えて共に語り合う機運が訪れている。この様な医療を取り巻く新しい環境の中へ、若々しい意欲に燃えて巣立って行く諸君の前途には、21世紀の医学を築く使命が待ち受けている。それが人類の幸福をどこまで前進させることに成るのかは、まさしく諸君の双肩に懸かっていると言えよう。

顧みると、北海道の医師不足に端を発した旭川医科大学の創立から、早くも17年を経過した現在、卒業生総数は今回で 1,373名に達し、この内およそ 900名の先輩が既に道内各地の医療機関において活躍している。医師の総数で見る限り北海道はも早医師不足の状況にはないが、その分布には尚著しい偏りがある。北海道の策定した地域医療計画は、本道全体を6つの第3次医療圏に分割し、これを更に21の第2次医療圏に分けているが、今や本学卒業生は、後に続く者を信じてこれら第2次医療圏の全てに赴いて活躍し、本道地域医療の充実に貢献しつつある。

心の通い合う友人の住む処こそ我が故郷であるとは、かのドイツの詩人リルケの言葉であるが、東洋にも“到るところ青山あり”と言う言葉があって、求められる処で自分を活かす働きの出来る事こそ人生の幸せであるとされている。道内はもとより、日本列島の各地や海外にまで進出した同窓の先輩を心の友として、勇躍各自の青山を求めて旅立つ諸君の門出に心からの祝福を送りたい。

卒業を目前にして遭遇した今次中東湾岸戦争は、久しく続いた平和の中で育った諸君にとって、極めて衝撃的な体験となったことであろう。人間が互いにその生命を脅かし合う戦争には、医人として特に強い憤りと空しさをすら覚えるものであるが、不幸にして巻き込まれた当事国の人々の受難に対して、世界の国々はこれを未然に防ぎ得なかった反省に立って、一日も早い戦後の復興を願う援助の手を差し伸べなければならない。地球の環境問題に見られる様に、世界は今や一国の利害を越えて協調し合わなければならない時代を迎えている。最近とみに叫ばれている我が国の“国際化”の成否は、この様な世界の良識がめざす目標に向かって、日本人としてどのように貢献し得るかに懸かっている。医学を通して直接人類の幸福に関わってゆく使命を帯びた諸君が、こうした国際的視点をも見失うことなく、来たるべき21世紀の担い手として活躍されんことをせつに念願してやまない。

1991年の卒業生を送るにあたって

13期生担任　竹　光　義　治
（整形外科学講座教授）

13期生の諸君ご卒業おめでとう。先ずはほっと胸をなで下ろし、これからじっくり嬉しさが涌いてくることであろう。苦労して一つの大きな難関を乗り越えた現実とそれを得た自信、味わった喜びはこれからの君達の人生で大きな心の支えとなるであろう。

ここまで来るには実に多くの人たちにお世話になって来た。気が付かないところで君達のために人知れず心を砕いた人が沢山いることも忘れてはならない。感謝の心は人として生きる上ですべての出発点である。

これから国家試験を受け幸いに医者になれば知的専門職としてその社会的責任は大きい。人としてはもちろんのこと、医者として医学者としてもっとも大切なことは責任感である。非常時には患者優先、責任感をもって治療にあたって初めて信頼が生まれる。信頼ほど貴いものはない。

新潟地方で代々医師の家系を継いでいる丸山家に医師の守るべき次の五箇条の箴言（しんげん）が伝えられていると聞いている。

医は　慰なり慰むべし
医は　畏なり畏れを知るべし
医は　威なり威厳をもつべし
医は　衣なり衣服をととのうべし
医は　意なり心あるべし

1はおもいやりの精神である。患者さんは体の病気であっても必ず精神的な救いを求めている。局所だけみていると木を見て森をみずと言うことがおこる。人全体を見て医の面から心の支えと慰めが不可欠である。

2の畏れとは、第1に医師としての責任と信頼に関する畏れ。第2は自然に対する畏れ、第3に医学の知識技術経験の修得に関する畏れである。卒業して何年かすると、知識も増え技術も身について何でもできるような気になることがある。読みが浅いからそのあと必ず天狗の鼻は折れ惨めになる時期が来る。これをてこに常々精進に励み、質のよいレベルの高い医療を提供しなければならない。しかし、医師といえど万能ではない。自分の今の実力と限界を知ることも大切である。そのために先輩や他科の専門家、また co-worker がいる。医療にこれらの人達の協力は不可欠である。

3は誤解を受け易い。威厳とは表面的なものではない。もしそうだとすれば患者は心を開かない。ここでの威厳とは自らの全人格をもって正面から患者という一個の人格と向かい合う時の公明正大な厳しい心構えと、原因を突き止める科学的な心構えを指していると思われる。

4の衣服について若い人は無関心である。衣服を整えることは医師が患者さんに対し、清潔感を与えるとともに心構えとして「自分は真摯な気持ちで貴方に向かい合っているのですよ」ということを意味している。

5は患者さんに対し、怪我や病気の表面だけを上滑りせず、意欲と真心で向かい合いベストを尽くしてあげなさいという意味と思われる。そのためには人間性豊かな、抱擁力の大きい医師になってほしいものである。

自分自身を振り返って、（なかなかこの理想通りには行かないが）、医の原点として大事な箴言と思っている。

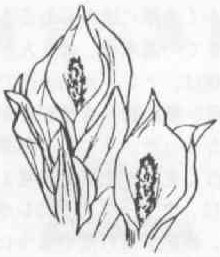
次の願いは基礎医学研究についてである。いうまでもなく医学を根本で推し進めているのは基礎医学者である。わが国はとくに基礎医学者が不足している。旭川医科大学から多くの基礎医学者が生まれて欲しい。基礎的研究により臨床ではどうにもならない壁が乗り越えられている。地道であるがその功績は計り知れない。また、科学的興味を満足してくれる喜びもある。すくなくとも人生の中で基礎医学の進歩に貢献する時期が何年かあってよいではないか。更に医師も科学者の一人、臨床的研究においても基礎で学んだ科学的思考はきっと役立つ。

これから諸君は旭川医科大学の看板を背負って歩くわけである。人に人格があるように大学にも学格がある。後輩のことを思い、いい学格を広めてほしい。

最後に、健康は医師にとってことに重要である。病気をして初めて患者の気持ちがわかるという一面もあるが、自分の不摂生で病気をし、休みが多いようでは医師として失格である。健康は自分の不断の努力でかち取るもの。自分の健康管理もよい医療を行うために大切な医師の勤めである。

立派な医師、医学者になるかどうかはこれからが勝負である。世界のどこにいても力一杯医の道に挑戦し、医師、医学者としての充実した人生を送ってほしい。

ご成功を祈る。



青春を山に賭けて

第13期卒業生　會澤　佳昭

『青春を山に賭けて』という植村直己さんが書いた本がある。これは、植村さんが大学山岳部に入部し、初めて山と出会い、青春時代に世界中の山々を駆け巡った頃の事を綴ったものである。

私は、自然の少ない東京に生まれ育った。高校の時、大学は都会を離れ、まだ自然が沢山残っていて、雪の降る所へ行きたいと思い、旭川医大を選び北海道へやって来た。そしてかねてから山登りをしたいと思っていたため、早速山岳部へ入部した。これが私の山との出会いとなり、6年間北海道の山々を登り続ける事となった。1年の頃は、とにかく先輩に連れられるまま、山を登りまくった。夏休みまでの週末は、ほとんど山で過ごすことになり、土曜の夜は、テントか山小屋で寝袋にくるまって、沢の音を聞き、草の香りを嗅ぎながら眠りにつくのが当り前の生活となった。そして、四季を通していくつもの山を登り、行く先ざきで感動を覚えた。週末に山へ行きたいがために、ウイークデイにレポートや試験勉強を頑張ってやり、再試を受けないように努力した。山に試験の資料を持って行き、テントの中で勉強したこともあった。なぜ自分は山に登るのか、理由ははっきりしない。兎に角登りたくなるのだ。重いザックを背負い、急な登り、厳しいルートを行く時は、「なぜ、自分はこんな事をしているのか」と悔むことがよくある。しかし、難ルートを越え、頂上へたどり着き、眼下に広がる景色を見下ろす時や、稜線にテントを張り、満天の星空や、燃えるような朝焼けを見る時、本当に来てよかったと思い、自分の置かれている境遇に酔いしれる。そして下山後、またあの感動を味わいたいと思い、次の山行計画を練ろうと地図を拡げるのである。山登りの楽しみは他にもある。それは気心の知れた仲間と、本当に寝食を共にすることだ。皆で一緒に食事を作り、時には同じ器で食べたり飲んだりする。夜はテントの中で身を寄せ合って寝る。寒い冬山の夜では人のぬくもりは貴重だ。吹雪の日などは仲間のトイレの心配までもする。危険な所では、ザイルで引っぱり上げたり、引っぱり上げられたりして、前へ進んで行く。そして、仲間に命をたくし、壁を登りルートを探す時もある。そうしていくうちに信頼関係が生まれ、山登りが2倍にも3倍にも楽しくなる。そういう仲間がいた事は、大変ありがたいことだと思う。卒業し働き出しても、少ない休みを利用して、山登りを続けていきたいと思う。又、これからの未知なる人生も、山岳部で培った精神をいかし、長い長い頂上への道のりを歩んで行こうと思う。

旭川での６年間

第13期卒業生　阿部　麻美

まだまだと思っていた卒業式も間近となり、あちらこちらで春の便りを聞くころ、“北海道”の旭川に来て６度目の冬が過ぎていこうとしています。思いだせば６年前、周囲の人から「あんなに寒いところで生きていけるの？」といわれ、自分でもひと冬のり切れるか不安いっぱいで旭川へ来ましたが、どうにかいくつかの冬を越して結局６回目の冬をのりこえようとしています。

ふりかえってみると、私の６年間はバスケットでいっぱいだったことに気付きます。（正直にいいますと…）バスケット部に入部当時、つらくきびしく本当に練習がいやで、さぼれるものならさぼりたいと思ったこともあります。全く真面目ではありませんでした。先輩達がなぜあんなに一生懸命練習にうちこんでいるのかわかりませんでした。何度か暑い夏を過ごし、その度に先輩達が苦汁を飲むのを見ていました。ところが、不真面目な私にもある出来事がありました。その夏はめずらしく寒い夏で、私たちは試合に負け、その年の東医体は終わりました。試合の後、私は次の試合を見ていました。その試合で心に残ったものは、上手な３点シュート、ダンクシュート、美しい速攻ではありませんでした。どうして私はこのコートの中に立っていないのだろう。どうしてこんなところでユニフォームも着ずに試合を見ているのだろう。くやしい。「来年すこしでも長くユニフォームを着て、一分一秒でも長くコートでボールをさわっているぞ。」と決心しました。これが私にとっての第２の（〝第１〟の存在は不明ですが）バスケットのはじまりでした。

翌年は、キャプテンとして“鬼”になったこともありましたが、その年の大会は、最後までユニフォームを着ていることができました。また、今年の大会も最後までユニフォームを着ていることはできましたが、最後にくやしい涙を流すことになってしまいました。

後悔はたくさん残っています。体を痛めたり、犠牲にしたことも数多くありましたが、でも本当に今、バスケットを６年間あきらめずに続けてきてよかったと思います。その中で得ることができたものもありました。

旭川に来て、群馬の片田舎では決して見ることのない美しい大自然の中での６年間は、私にとってかけがえのない、きらめきに満ちた時間でした。そして旭川が第２の故郷と思うようになりました。

産まれたての卵だった私たちを、６年間あたため、育ててくださった諸先生、先輩方、本当にありがとうございました。私たちは卵からかえり、医師として社会へ出ていこうとしています。まだまだ“ヒナ”ですが、今までの教えを忘れずに、最後まで自分のユニフォームを着てがんばりたいと思います。

腕の日焼けと６年間

第13期卒業生　和田　始

湿度の低さと、やはり北海道でも暑い夏の日差しを感じつつ、自転車で道東を旅行したのは、昨年のことでした。朝、目が覚めたら走りだし、見る間に変わっていく腕の黒さに満足しながら、疲れたらオホーツクの海のすぐ傍の防波堤に寝転がって昼寝をし、日の暮れる前にテントを張って、簡単な夕食を作り、コーヒーを沸かしながら夕日を眺めるという気楽な旅でした。そして、沢山の人に出会えた旅でもありました。ある、うだるような暑い日に、摩周湖に続く延々と伸びるだらだら坂をひとり昇り始め、およそからだの水分を絞り切ったころ摩周第１展望台につきました。霧一つない湖を背景に撮った記念写真には、自慢の自転車を大事そうにささえてぼくと同じように真っ黒に日焼けして微笑む七人の仲間が一緒でした。納沙布岬をめぐった朝は、湿った霧と向かい風と寒さに悩まされ、カムイワッカの滝に向かう砂利道では泥だらけの濡れねずみになって走りました。そんな状況でも、いつのまにか楽しめるようになった自分に気付くが、その時には、予定の２週間はあっという間に過ぎ、考えていた1200kmを走り終えてその夏の旅行は終わりました。

いま思えば、去年の夏の旅行と、大学６年間はある意味でとても似ているように思います。結局は自分独りで走らなければいけないのだけれど、決して独りでは走れなかった事。そして、僕にとって何よりも大事な体験であったという事です。

「何もしないうちから出来ないと言ってしまっては、何も始まらないし、まして他人から信用されるはずはない」と、先輩に言われた。今でも自分にとって一番大切な台詞です。その先輩をはじめ、多くの先輩に本当にお世話になっておきながら、今だにお礼の言葉は言えずじまいです。また、自分を見失ってしまった時や、周りの人間だれもが信用できなくなった時、傍にいてくれたのは友人であり、いつも慕ってくれたのは後輩でした。そしてまた、今まで僕らの学ぶ機会を支えてくださった多くの先生方をはじめ、大学の職員の方々、時々声をかけてくれた売店のおばさんにいたるまでこれら沢山の人に出会え、沢山の人と話が出来たことが、僕にとって最大の自慢であり、自信です。そしてこれらの人たちに、心から感謝したい気持ちでいっぱいです。

いちばん最初の講義で「（学生番号が）一番最後なのに始と言う名前の和田君」と呼ばれて始まった６年間は瞬く間に終わろうとしています。入学したのは本当に昨日のような気がするのに、受験にやって来る受験生を見てそのあどけなさに驚いてしまう。自分ももう６年間もここで過ごしてしまったのかと驚く程です。その間に少しは大人になれたのか、勉強は果たして身についたのかと疑問も少し残り、自信もないところですが、目には見えないけれど、去年の夏の日焼けのように、６年間の出来事がきっと身体のいたるところにしみ込んでいる事を、秘かに願っているしだいです。

退官にあたって

数学教授　安田　博

私が本学の教官予定者として内定したのは、昭和47年でありまして、昭和48年4月には、本学に赴任できるものと思っておりました。ところが諸々の事情（詳しくは、旭川医科大学十年史67頁から69頁参照）のため、実際に赴任できたのは、昭和49年4月でした。まだ新校舎は完成されておらず、教育大学附属旭川小学校旧校舎で元学長山田先生より辞令を受け取りました。5月に入って、ようやく新校舎の一部が完成し、やっとそこに移転できました。その後続々と諸々の施設が完成し、現在に至っているわけであります。

当時の数学関係のカリキュラムは、一般教育科目として第一学年に数学Ⅰ、数学Ⅱ（いずれも4単位、必修）、基礎教育科目として第二学年に数学Ⅲ（2単位、選択）、そして一般教育科目として統計学（4単位、選択）となっておりました。ただし統計学は社会系科目に属しておりました。

昭和50年4月にカリキュラムの改正がありまして、数学Ⅲは新科目情報処理として生れ変り、物理学科が担当することになり、統計学は第一学年で履修することになりました。

平成元年4月には、再度カリキュラムが改正されて、数学Ⅰおよび数学Ⅱは唯一科目、数学（4単位、必修）に統一され、情報処理および統計学も新科目、統計情報処理（4単位、必修、含実習）として統一されて、第一学年で履習することになりました。また第二学年には新科目、応用数学（2単位、選択）が誕生いたしました。私は残念ながら、この科目には実際に関係することなく、本学を去ることになります。また平成2年12月には、統計情報処理実習室が増設され、パソコン55台が整備されました。大変喜ばしい事であります。

昭和54年4月、本学に待望の大学院医学研究科が設置されました。四つの専攻があります。即ち細胞・器官系専攻、生体情報調節系専攻、生体防御機構系専攻、人間生態系専攻であります。数学科は第二番目の専攻に関係があります。特に生体情報処理特論Ⅰは、この専攻の共通必修科目で、毎年多くの院生が受講しています。平成2年度は、今迄の中で最高の18名が受講し、私は非常に苦労いたしました。しかし現在は、情報処理実習室ができ、充分のパソコンも整備されましたから、楽しく学習できるのではないでしょうか。

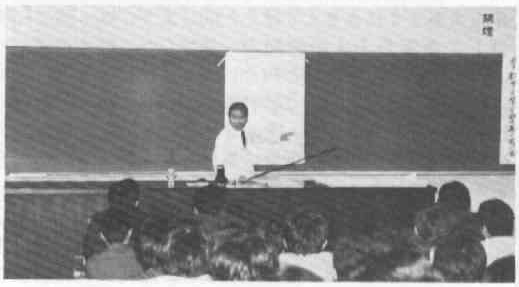
私は昭和26年北大理学部数学科を卒業後、苫小牧の高等学校と釧路の教育大学での23年、旭川医科大学での17年、合せて40年間、数学教育と研究に携わさってきました。苫小牧では、高校で教鞭をとりながら、北大理学部大学院に籍をおき、河口商次教授の下で、幾何学を研究していました。昭和34年には、河口教授の推薦で、釧路の教育大学に移りました。釧路では、数学科の学生に専門の数学を講義をしたり、卒業ゼミナール指導をする傍、本格的に幾何学の研究に取り組んでいました。私にとりまして、ここの15年は、かなり楽しいものでした。昭和47年に、北大理学部桂田芳枝教授の推薦で、私が本学教官予定者として内定したと聞いています。

旭川での17年は、私にとりまして長いようでもありまた短いようでもあります。つまり時間的には確かに長いのですが、心理的にはそのようには思えないのです。それは多分持続的精神緊張と慢性的多忙のせいかもしれません。赴任当時、複数の数学教官の可能性を考えていましたが、実際は不可能で、唯一人で出来る限り何でも処理しなければならぬという自覚をもつ必要がありました。さまざまな経験、体験を積みました。例えば二度の学年担当、一般教育責任者になった事、毎年の入学試験業務に携わる事、数度にわたる海外研修等々。また幾何学の研究においては、かなりの成果が得られました。

以上の様に、17年間何とかそれなりに、やってこられましたのは、各学長、山田先生、黒田先生、下田先生をはじめ、先輩・同僚の諸先生方、そして事務局の皆様の寛容と御援助があったればこそでありまして、心より厚く御礼申し上げます。

学生の皆さんには、最終講義の際に、花束や写真等を贈呈下され、感激いたしました。心より感謝いたします。

旭川における17年間は、私にとりまして、種々さまざまな人生経験を得た貴重な歳月でありました。今大学を去るに当りまして、衷心より御礼申し上げますと共に、諸先生方、事務局の皆様、そして学生の皆さんの御健康と益々の御発展を心より祈念して止みません。



最終講義

紹　　介

昨年10月着任した外国人教師ジョージ・メレディス・ウィックステッド先生は、英国リバプール出身、昭和31年12月31日生れ、34才。大学では、英語・英文学を学ばれ、通算7年にわたって日本で英語を教えてこられた。

新任教官あいさつ

By George ! It's the new English Teacher

George Meredith Wickstead

I am very pleased to have the opportunity to introduce myself and tell you something about my background, but first of all let me thank everyone for the warm welcome I have received on coming to this college.

Originally I come from Liverpool, England and I lived there until I went to study at Manchester University. One of my main aims in life has always been to travel and as soon as I had graduated I set off to see the world. I lived in France for one year and then I got my first major teaching job in Kuwait (I'm glad I'm not there now !). With the money I saved there I was able to realize my ambition and buy a round-the-world air ticket. My one year trip was a great adventure for me and I had many good and a few bad experiences but I learnt a lot about the world and a lot about myself. After arriving back in England I was offered a job in Tokyo. Japan is a country I'd always wanted to visit, with its unique culture and customs, and I immediately accepted the opportunity.

I hope our students will take their opportunities in life and make the most of their talents. In particular, they now have a golden chance to improve their English and develop their listening and speaking skills in a truly international language. My professional aim will be to help our students achieve their goals in an enjoyable environment.

Many people have asked me why I came to Asahikawa. Well, the main reason is that I wanted to see what Japanese life is like outside Tokyo and coming to Hokkaido seemed to be a good opportunity to experience life outside the capital. In addition, I have several personal aims while I'm here which include : improving my Japanese language ability, becoming a good skier, and running at least one full marathon. However, my main aim will be to make a success of my job and teach the students to the best of my ability.

助教授に昇任して

小児科学講座　藤田　晃三

昭和49年4月本学開校の翌年吉岡　一教授、奥野晃正助教授とともに助手として赴任して以来17年になろうとしています。はじめは旭川市立病院の暫定施設に通って、佐竹良夫医長の好意で隔離病棟に入院した小児患者の診療をさせて戴くかたわら、南向きの暑い部屋で細菌の感受性検査などしていました。昭和51年7月研究棟が完成して移転し、10月附属病院業務が開始された後は、現在まで大きな変化のない研究室、実験室、外来、病棟などで大半の時間を過ごしてきました。

私の専門は小児科で、感染症でもあります。昭和43年大学を卒業したあと1年間の自主研修（卒業の年突然インターン制度廃止になり卒業後すぐ国家試験を受けてよいことになったのですが、すぐの国家試験は受けずに指導医のもとで内科、外科などの患者さんを診せて戴いたわけです）と2年間の函館中央病院での小児科医員生活の後、北大小児科に研修医として受け入れて戴きました。この時、当時の吉岡助教授について感染症患者の診療の手ほどきを受けたのが感染症を専門にするきっかけでした。一時期札幌医科大学微生物学教室研究生として、林喬義教授のもとで細菌学の基礎を習ったこともよい勉強になりました。当時、化膿性髄膜炎患者の予後は悲惨で、ようやくアンピシリン大量投与の論文が出始めた頃でした。微量体液中抗生剤濃度測定法を覚えたこともあって、髄液中抗生剤濃度を調べながら化膿性髄膜炎患者の診療に当り、比較的よい治療成績が得られたことが最初の仕事でした。その後は主に治療と予防に関心を持ちながら小児感染症患者の診療に当るかたわら、咽頭・腸内菌叢や院内感染に関する仕事、緑膿菌、黄色ブドウ球菌、A群連鎖球菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、大腸菌などについて臨床細菌学的な仕事をして今日に至りました。

我が国では古典的な感染症は減少していますが、疾患そのもの、あるいは、その治療に基づく感染防御能低下患者の増加に伴い、こうした患者の感染症が大きな問題になっていますし、それにからんで院内感染も重要な問題です。また、世界に目を向ければ、発展途上国ではまだまだ感染症で亡くなる人は莫大な数にのぼります。こうした問題を考え仕事をしていく上に、昭和54—55年英国院内感染研究所（バーミンガム市）と昭和61—62年ケニア中央医学研究所（ナイロビ市）における外国での研究生活と多くの知人を得たことは、今でも大きな支えになっていますし、大変よい思い出です。

今後は助教授としての自覚を持って診療、教育、研究に微力を尽くすつもりですが、もともとあまり型にはまるのを好みません。これからもよろしく御指導・御鞭撻下さいますようにこの場を借りてお願い申し上げます。

平成2年度　1年のあゆみ

4月

6日　平成2年度入学式（於　体育館）
〔新入生 100名（うち女子学生21名）〕
16日～17日　新入生研修　第1回目（於　第2～4セミナー室、和室）

第18回入学式

5月

16日　医師国家試験合格者発表
（本学合格者 115名、合格率　87.1%）

6月

14日～17日　第16回医大祭
29日　学位記授与式（於　第二会議室）
（学位記受領者　6名）

第16回医大祭

7月～8月

7月9日～8月25日　夏季休業
7月13日～7月15日　第37回北海道地区大学体育大会
（当番校　小樽商科大学）
〔本学参加種目〕陸上競技（男女）、準硬式野球、軟式庭球（男女）、バスケットボール（男女）、バレーボール（男）、サッカー、卓球（男女）、剣道（男）、弓道（男女）、
準硬式野球優勝、卓球女子3位、弓道女子3位
成績：男子総合　8位、女子総合　6位

第37回地区体

7月22日～8月6日　第33回東日本医科学生総合体育大会夏季大会
（主管校　札幌医科大学）
〔本学参加種目〕陸上競技（男女）、準硬式野球、硬式庭球（男女）、軟式庭球（男女）、卓球（男女）、バレーボール（男女）、バドミントン（男女）、サッカー、バスケットボール（男女）、柔道、剣道、弓道、空手、水泳（男女）、ゴルフ
準硬式野球、バレーボール男子、バスケットボール女子優勝、陸上競技男子準優勝、卓球女子3位
成績：総合　準優勝
7月25日～3月22日　第33回東日本医科学生総合体育大会冬季大会
（主管校　信州大学医学部）
〔本学参加種目〕ラグビー、アイスホッケー、スキー
7月31日　平成2年度納骨式（於　本学納骨堂）

第33回東医体

9月

2日～30日　平成2年度公開講座
　　「家庭における救急処置（救急医療）」
5日　体育大会　（主催　学生）
　〔学年対抗〕サッカー、バレーボール、テニス、綱引き、リレー、駅伝、ソフトボール
　優勝　第4学年

体育大会

19日　平成2年度解剖体慰霊式並びに文部大臣感謝状伝達式（於　体育館・第4セミナー室）
28日　学位記授与式（於　第二会議室）
　（学位記受領者　3名）

解剖体慰霊式

10月

29日～11月2日　新入生研修　第2回目
（於　第3～4セミナー室）

新入生研修（第2回目）

11月

5日　本学記念日

12月

12月17日～1月12日　冬季休業
17日～18日　スキー教室（於　黒岳スキー場）
　講師4名、厚生補導委員会委員1名
　参加学生34名
25日　学位記授与式（於　第二会議室）
　（学位記受領者　5名）

スキー教室

1月～2月

1月12日～1月13日　平成3年度大学入学者選抜大学入試センター試験（本学会場 735名）
2月6日　安田教授最終講義
2月25日　平成3年度大学院入学者選抜試験
　（受験者　15名）

3月

5日～6日　平成3年度入学者選抜第2次試験
　（受験者 500名）
11日～4月6日　春季休業
13日　安田教授歓送式
14日　平成3年度大学院入学者選抜試験合格者発表
　（合格者　16名）
20日　平成3年度入学者選抜第2次試験合格者発表
25日　学位記授与式　（於　第二会議室）
　（学位記受領者　18名）
　第13回卒業証書授与式　（於　体育館）
　（卒業生 121名）

（庶務課・学生課）

統計情報処理実習室の開設について

物理学　谷本　光穂

昨年10月講義実習棟の第7講義室隣りに「統計情報処理実習室」が新設されました。これは、本学の教育カリキュラムの抜本的見直しを検討したカリキュラム検討小委員会（東委員長）で重要課題の一つに情報処理教育の充実があげられ実現したものです。下田学長をはじめ教授会のご理解と事務局のご尽力に対し、厚く御礼申し上げます。

さて、この実習室は主に一学年開講の「統計情報処理」の実習に使用しますが、「実験心理学」「物理学実験」「公衆衛生学実習」にも使用が予定されています。今後他の実習科目での利用も増えてくると思われますが、この立派な設備に閑古鳥の鳴くことのないよう学生のみならず職員の方々の積極的な利用を歓迎致します。設備の概要は、NEC98シリーズパソコン55台（32bit 9台他は16bit, 40MByte ハードディスク付き）プリンター28台、冷房付き防音室になっています。またソフトは、MS-DOS、MS-FORTRAN、各種統計ソフト、一太郎、P1.EXE PLUS、Lotus 1-2-3 が用意されています。又近い将来スライド作成装置、X－Yプロッターなどの導入を考えています。レポート作成から作表・作図まで自由に使っていただけると思います。授業期間中の実習室の開放は難しいですが、春、夏、冬の各長期休業期間中は一般ユーザーに大いに利用していただけます。実習室を利用する時は、事前に学生課教務係又は物理学教室に相談して下さい。又、各種ソフトや周辺機器の充実を逐次進めていきますので、希望がありましたら遠慮なく申し出て下さい。

最後に、ソフトウェアの取り扱いについて一言述べておきます。実習室に常備されているソフトは全て著作権法の対象になっています。従って、無断で copy することのないようにくれぐれも注意して下さい。これらのソフトはもちろん国費で購入したものであり、著作権法に触れるようなことがあると大学全体の問題として処理しなければならず大変なことになります。その他にも個人で作ったプログラムも多数おいてあります。市販のソフトを copy したり他人の情報を無断で見たり改ざんすることは、著作権法の問題ばかりでなく privacy の問題でもあります。これらを解決するには多額の経費をかけて頑丈な「金庫」のような security system を作る事もある程度可能でしょうが、私共はむしろユーザー側の moral によって情報 security を守ることに期待しております。

実習風景

図書館の貸出システムが電算化されます

図書館の業務電算化がすすみ、いよいよ新年度からコンピュータによる図書の貸出・返却を行うことになりました。

このことに伴って利用者一人ひとりに、数字6桁（うち1桁はチェックデジット）からなる利用者コード（学生の場合は学生番号に対応している）が与えられ、このコードが新年度から学生証の裏面に付されるため、学生証の様式も新たに変わることになります。（12頁を参照）

図書の貸出は、この学生証の利用者コードと図書に貼っている図書ラベルのコードをＯＣＲハンディスキャナーで読み取ることによって貸出を行います。そのため館外貸出を希望するときは、必ず学生証を提示してください。提示のないときは図書の貸出を受けることができませんのでご注意ください。

なお返却は、図書コードをＯＣＲハンディスキャナーで読み取るだけで処理を行います。図書館閉館後であっても、ブックポストに返却された図書は従来どおり返却の手続きがとられます。

また、図書の返却が遅れた場合、遅れた日数分がペナルティとして課せられ、その期間貸出を受けることができなくなります。従来の貸出券ごとの停止とやや異なりますが、返却遅れのないようにご留意ください。たまたま事情があって返却が遅れるようなときは、カウンターへご相談ください。

音楽で豊かな感性を

図書館の視聴覚室は、このほどニューメディア対応の機器が整備され、それに伴い若干ではありますが資料の充実も図られました。

新しい資料としてはクラシック音楽のＣＤやＮＨＫ特集番組並びにオペラ、バレエ、洋画等のＬＤが購入されました。これまで不足していた憩いの場、豊かな人間性を育む場としての設備が幾分かでも整えられたのは嬉しいことです。利用は部屋の条件からヘッドホンを使用していただきます。このほかに医学領域のＬＤ資料として「早期胃癌診断の実際　全五巻」と「神経疾患の運動障害のみかた」、「組織学標本集：スライド解説インデックス付」の３点がありますが、最後の「組織学標本集」はテキストの図版のページ（白黒印刷）にバーコードが印刷されており、それをスキャナーでなぞるとその図版がテレビ画面にカラーで写し出されるというものです。

（附属図書館）

平成4年度の地区体は本学が当番校に

第39回（平成4年度）の北海道地区大学体育大会の当番校が12月に開催された協議会の会議で本学に決定されました。

これは第29回（昭和57年度）の地区体以来10年ぶり2度目の当番となります。開催日程は本学が夏季休業に入る7月11日（土）～13日（月）を検討中であり、会場は本学の体育施設のほか、市の陸上競技場、スタルヒン球場、総合体育館、大雪アリーナ、富沢多目的運動広場、弓道場等を使用予定です。

運営には関係クラブのほか、全学の教職員及び学生諸君の協力が必要となりますので、その折りには協力のほどよろしくお願いいたします。

なお関係クラブとは順次打ち合せを行う予定ですので協力願います。（学生課）

昨年の総合開会式

スキー教室を黒岳スキー場に変更して実施

当初計画していた北大雪スキー場が暖冬の影響で雪がなく、スキー場がオープン出来ず、スキー教室の実施が危ぶまれたが、急遽会場を黒岳スキー場に変更して12月17日(月)・18日(火)の両日にわたり実施された。参加学生は34名で、上級・中級・初級、それに初心と4班に分かれて講習が実施され、特に初心の班はスキーが生まれて初めてという1年生2名であったが、二日目にはそれなりに滑れるようになったようである。

また17日の夕食時には講師の先生を囲んで交歓会やスキー講習のビデオ観賞が行われ、有意義な一時を過ごした。なおこのビデオテープは貸し出しをしているので希望者は学生課学生係まで申し込んでください。（学生課）

クリスマスコンサート(合唱部)と室内楽コンサートが病院ロビーで行われる

合唱部によるクリスマスコンサートと室内合奏団による室内楽コンサートが12月21日と23日それぞれ附属病院ロビーで行われた。これは日ごろの練習成果を発表するとともに、「入院生活で毎日、つらい日々を送っている患者さんたちの励みになれば」と企画されたもので、会場には入院患者、看護婦等約 100人が詰めかけ、コンサートを楽しんだ。

さらに合唱部のクリスマスコンサートは、「医科大学らしいユニークなクラブ活動」として北海道新聞に掲載され、広く全道に紹介された。

また室内合奏団は卒業式に演奏による式典参加が予定されている。（学生課）

クリスマスコンサート

新入生歓迎実行委員会よりおしらせ

みなさんお待たせしました。今年も例年通り新歓合宿を行うことになりました。日程は4月6・7日で、場所は観音ロイターの予定です。予定内容としては講演会、各クラブ紹介、上級生との座談会などがあります。もちろん、第一の目的は新入生どうしの交流を深めることですから、そのための時間もたっぷり用意しております。（酒もあるよ！）

「新入生どうし仲良くなりたい」、「旭医大学の実体（？？？）を知りたい」、「医学生としての目標を固めたい」などと考えているあなた！　新歓合宿に来て、決して悔いは残りません！　多数の御参加を期待しております。

教官の異動

昇　任

◎藤田　晃三　3．1．1　小児科学講座　助教授

（庶務課）

―課外活動短信―

第33回東日本医科学生総合体育大会（冬季）

ラグビー　　ベスト８（対：日大、筑波、慈恵医大）
　　７／25～８／３　長野県菅平高原

アイスホッケー　総合６位（Ｂリーグ優勝）
　　個人　千里直之（２年）　新人賞
　　12／26～30　東京東伏見アイスアリーナ

※　創部１年にして東医体６位（出場14チーム）と健闘したアイスホッケー部は、職員との混成チームで旭川アイスホッケーリーグ戦に出場し、１部で惜しくも３位（全部で４部27チーム）と活躍、３月３日から開催されている旭川市長杯も昨年に引き続き優勝が期待されている。

アイスホッケー部

基礎スキークラブ

全日本スキー技術選手権旭川地区予選　16位
（旭川地区代表として全道大会に出場）
近間　威彦（２年）

第２８回全日本技術スキー選手権大会・予選を終えて

２年　近間　威彦

私は技術選に初めて参加し、旭川予選16位になりました。本来なら予選不通過なのですが２人欠場のため、全道大会へ駒を進めることができました。全道大会では旭川地区の方々と知り合うことができ有意義なものとなりましたが、結果は前半２種目の点が伸びずに予選不通過となりました。来年は全道大会本選出場目指して練習に励むつもりです。また、旭川大会でサポートしていただいた方々、ありがとうございました。

〝学生諸君の競技結果等の投稿を歓迎します〟

学生団体設立・継続届について

平成３年度において、新しく設立しようとする学生団体、もしくは活動を継続しようとする団体は、４月26日㈮までに設立届または継続届を学生係に提出して下さい。

なお、継続届の提出がない学生団体は、解散したものとして処理するので注意すること。

（学生課）

学生証の様式の変更について

４月１日から学生証の様式が一新します。これは図書館の貸出業務が電算機処理されるのに伴い、学生証にＯＣＲハンディスキャナーで読みとることのできる利用者コードが必要になったことと、併せて査証制度を廃止するために変更するものです。

新しい学生証の様式は携帯に便利なようにＩＤカードサイズ（8.6×5.4センチメートル）に小型化し、汚損に耐えられるようにラミネート加工（ビニールの被膜で覆ったもの）を施したものになります。

従来の学生証は３月末をもって全員期限切れとなり、新しい学生証の交付を受けなければ各種の事務手続きができませんので注意してください。

また、この学生証の発行により事務手続きが一部次のように変更になりましたのでお知らせします。

1.　毎年実施していた査証制度を廃止し、有効期限を３年間（大学院学生は４年間）とすることで事務手続きの簡素化を図ったこと。
2.　従来の学割交付欄を削除したので交付枚数を確認したいときは、学生課厚生係に問い合わせること。
3.　この学生証の交付に際して、顔写真が必要となります。３ヶ月以内に撮影した写真（正面上半身、脱帽、３×３センチメートル）を学生課学生係まで１枚提出してください。（翌日交付します）

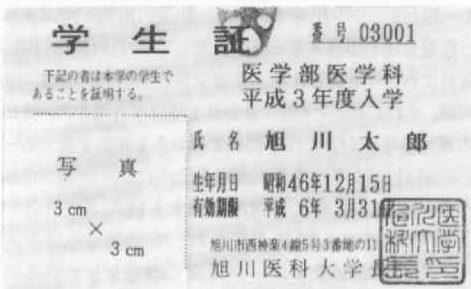
この学生証の様式の変更に伴い、学生準則の一部が下記のように改正されたので通知します。

記

第４条第１項中「入学の際及び毎学年の始めに」及び「又は査証」を削り、「呈示」を「提示」に改める。

（学生課）

表



学　生　証　　番号 03001

下記の者は本学の学生であることを証明する。

医学部医学科
平成３年度入学

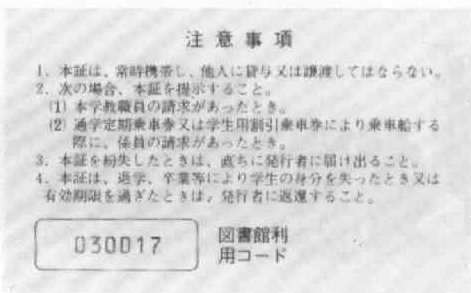
氏名　旭　川　太　郎

写　真
3 cm × 3 cm

生年月日　昭和46年12月15日
有効期限　平成　6年　3月31日

旭川市西神楽4線5号3番地の11
旭川医科大学長

裏



注意事項

1. 本証は、常時携帯し、他人に貸与又は譲渡してはならない。
2. 次の場合、本証を提示すること。
　(1) 本学教職員の請求があったとき。
　(2) 通学定期乗車券又は学生用割引乗車券により乗車船する際に、係員の請求があったとき。
3. 本証を紛失したときは、直ちに発行者に届け出ること。
4. 本証は、退学、卒業等により学生の身分を失ったとき又は有効期限を過ぎたときは、発行者に返還すること。

030017　図書館利用コード

平成３年度　前期分授業料免除及び徴収猶予について

平成３年度前期分授業料免除及び徴収猶予を希望する者で、下記基準のいずれかに該当すると思われる者は、学生課厚生係で必要書類を受け取り、**平成３年４月１日（月）～４月２０日（土）までに申請してください。**

なお、申請者については、選考の間授業料の納入を猶予します。

記

Ⅰ　授業料の免除

1．　授業料免除基準

(1)　経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀であると認められる場合

なお、平成３年度において原級に留置されている者又、最短修業年限を越えて在学している者は、免除の対象としない(休学を理由とする者を除く。)。

(2)　授業料納期前６月以内（新入生については、入学前１年以内）において学生の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納付が著しく困難であると認められる場合

(3)　(2)　に準ずる場合であって、学長が相当と認める事由がある場合

2．　申請書類

(1)　授業料免除申請書

(2)　学資負担者が死亡した場合は死亡診断書

(3)　災害を受けた場合は罹災証明書（市区町村、警察、消防署が発行したもの。）

(4)　市区町村発行の所得証明書（給与所得者については、平成２年分の源泉徴収票を、給与所得者以外については、平成２年分の確定申告書（一面・二面）等の写し（生計を一にする家族全員分）を、また、学資負担者が死亡した場合は、死亡前の所得証明書を併せて添付すること。）

(5)　失業者は、民生委員又は職業安定所の証明書

(6)　生命保険金の支払いを受けた場合は、当該保険会社の保険金支払証明書

(7)　家族の中に就学者がいる場合は、その者（申請者本人及び義務教育の就学者は除く。）の在学証明書

(8)　自動車保有に関する申立書

(9)　その他家庭事情により参考となる証明書等

Ⅱ　授業料の徴収の猶予

経済的理由等により納付期限までに授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀であると認められる場合は、当該期の授業料の徴収を一定期間猶予又は月割分納を申請することができるので学生課厚生係に申し出てください。

平成３年度　日本育英会奨学生の募集について

日本育英会は、優秀な学生で経済的理由のため就学困難な者に学資を貸与しております。

本学では、日本育英会からの推薦依頼に基づき、出願者の種々の条件を考慮して選考を行い、日本育英会へ推薦します。

ただし、日本育英会では奨学金貸与の種別ごとに推薦基準が定められており、その資格があっても採用枠の関係で推薦できない場合があります。

奨学生の募集要項を、４月上旬に公用掲示板に掲示しますので、貸与を希望する者は、提出期限に遅れないよう所定の書類を学生課厚生係に提出してください。

なお、募集の時期以外に家計の急変により、学資の支弁に困難な事情が生じた場合は、同係に相談してください。

学生教育研究災害傷害保険の加入について

本学は、学生の正課中・課外活動中における災害事故補償のために『学生教育研究災害傷害保険』の賛助会員大学となり下記のとおり加入受付事務等を行っています。

本保険は、学生の互助共済を基本として運営されており、学生生活中の万一の場合に備え、**できるだけ全員の加入を勧めています。**

まだ加入していない学生は、加入するようにしてください。

記

1．受付期間　自　平成３年４月１日（月）
　　至　平成３年４月30日（火）

2．受付窓口　学生課厚生係

3．保険料

６年間	３，４００円
５年間	２，９５０円
４年間	２，４５０円
３年間	１，９００円
２年間	１，３００円
１年間	７５０円

4．支払い保険金の種類と金額

区分／種類	正課中 学校行事中	学校施設内の休憩中 学校施設内外の課外活動中（学校施設外の課外活動については、大学に届出た活動に限る。）
死亡保険金	1,200万円	600万円
後遺障害保険金	54万円～ 1,800万円	27万円～ 900万円
医療保険金	治療日数４日以上が対象 ６千円～30万円	治療日数14日以上が対象 ３万円～30万円
入院加算金	１日につき 4,000円	１日につき 4,000円

20才以上の学生の国民年金への加入について

国民年金法の改正に伴い、大学に在学する学生で20才以上の者は、平成３年４月１日から国民年金の被保険者（当然加入）として適用を受けることになりました。

従来学生については、20才以後在学中に障害者となった場合、国民年金に加入していない限り障害基礎年金が支給されず無年金となっていました。また、基礎年金制度は、原則として、20才から60才までの40年間加入することを前提に満額の老齢基礎年金を支給することとされていますが、学生は任意加入とされていたため20才以上の在学期間中に、国民年金に加入していなかったものについては、卒業後年金制度に加入しても満額の老齢基礎年金が受けられませんでした。

このため、国民年金法が改正され、平成３年４月１日から、20才以上の学生も全て国民年金に当然加入することになりました。なお、国民年金への加入の手続き、保険料の納付方法及び保険料の免除等の詳細については、学生課厚生係又は、住民票を登録している市区町村の国民年金担当窓口へ直接問い合せしてください。

大学の紹介ビデオの貸出しについて

受験生を対象とした本学の紹介ビデオをこの度作成しました。入学から卒業までの学園生活や課外活動の様子、大学の四季等を20分間に収録したもので、在学生でも充分に一見の価値があります。またこのビデオは依頼があれば全国の高校に貸し出しており、母校の後輩にＰＲしてくれることを希望してます。希望者は学生係まで。

大愚良寛

霞立つ長き春日を子供らと手まりつきつつ今日もくらしつ

良寛は江戸時代後期の越後の人である。名僧というより子供らと一日中手毬をついていたりかくれんぼをしていたというような多くの逸話によって人々に親しまれている。良寛は生涯を清貧の内にすごした。日々の糧を托鉢にたより厳しい修行にうちこんだが、高潔な人格と豊かな人間性によって多くの人を魅きつけたのである。

私の故郷新潟県糸魚川市にある郷土博物館には郷土の文豪相馬御風（大正時代の文学者で早稲田大学校歌「都の西北」の作詩で名高い）の資料が展示してある。御風は晩年を良寛の研究と紹介に捧げた。それらの資料をもとに良寛の生涯をふりかえってみよう。

良寛は新潟県の出雲崎に生まれた。出雲崎は佐渡の金鉱の積み上げ港として栄えた港町で生家は代々の名主であった。父は風流人ではあったが名主としての政治的、経済的手腕に乏しくしだいに没落していった。良寛は子供の頃は内向的で友人も少なく家にこもって読書にふけることが多かった。成人して父の見習いをするようになったが、世事にうとく社交性に欠ける自分の性格から、この仕事が自分に向かないことを自覚し18歳の時仏門に入って修行した。22歳の時備中玉島の円通寺より国仙和尚が越後の地を訪れ巡錫した。師の高邁な人格に接した良寛はこの師のもとで仏道の修行に励むことを決意し、師もまた良寛の純粋な資質を高く評価して円通寺に連れかえったのである。円通寺では日常の作務に励み、坐禅をくみ、古典を読破していった。なかでも道元の正法眼蔵を最も愛読した。しかし朴訥として生まじめな良寛は一見愚人の如くであったが、師は良寛が成長するのを根気強く見守りつづけた。11年の修行ののち悟達したことをみとどけると良寛に印可を与えたのである。

良也如愚道轉寛　　良や愚の如く　道うたた寛し
騰騰任運得誰看　　騰騰任運　誰が看ることを得ん
爲附山形爛藤杖　　爲に附す　山形爛藤の杖
到處壁間午睡閑　　到る處の　壁間午睡閑たり

良寛は愚のようだけれどもその住む世界は自由無碍に広い。自然にまかせているその生き方は誰も理解できないだろう。よって彼に愛用の藤の木の杖を与えよう。この杖を部屋の壁にたてかけてゆっくりと休むがよい。

師の円寂後、諸国行脚の旅に出た良寛は途中で父の入水を知り深い衝撃をうけた。38歳で故郷に戻り国上山の麓の五合庵に住み修行をつづけた。また子供らと心ゆくまで遊び、郷土の人々と深く交わり「良寛さん」と慕われた。詩歌と書にすぐれ独自の作風をきずきあげていった。晩年、良寛を慕う若い尼僧貞信尼とのあいだにかわされた贈答歌はあたかも恋唄の如くほほえましい。

歌やよまん　手毬やつかん　野にや出でん
　君がまにまに　なして遊ばん　　貞信尼
歌もよまん　手毬もつかん　野にも出でん
　心ひとつを　定めかねつも　　良寛

腸疾患で衰弱した良寛は貞信尼や親しい友人にみとられて74歳で入寂した。

良寛研究の書は多い。相馬御風は百人の人には百人の良寛があると述べた。良寛の魅力の一つはその親しみやすさにある。どのように理解しても許される寛大さが良寛にはある。良寛は生涯を通じて「含羞の人」であった。雪深い越後の里で春がくると子供らと無心に手毬をついて遊んだ良寛。その姿に深い憧憬の念を抱かずにはいられない。

（内科学第二講座　講師）